

第十五回南のシナリオ大賞応募作品

田村のホームラン

登場人物

真栄田宏 (33)

西野千鶴 (32)

実況

アナウンス

「田村のホームラン」 あらすじ

あるマンションの一室。そこには既に離婚している一組の男女、真栄田と千鶴がいた。

千鶴は荷物の整理を終えて部屋を後にしようとするが、今日で引退する野球選手の田村の引退試合が気になり足を止める。田村は二人が結婚するきっかけになった人物だった。現役最後の打席を見届ける二人。結果は空振り三振だった。

千鶴との別れが名残惜しくなり、よりを戻そうとする真栄田に対し、千鶴は「田村がもう一度ホームラン打ったら結婚してあげると条件を出す。それはいわゆる、再婚は二度とありえないという事を意味していた。

が、奇跡が起きる。テレビの向こうでは選手達が必死にヒットで繋ぎ、田村にもう一度打席を回していた。ホームランを期待する二人。が、結果はあと一步足りずライトフライ。がっかりする二人をよそに、テレビの向こうの田村の表情は晴れ晴れとしていた。

テレビの野球中継が流れている。

実況「4対0。ホークス、4点ビハインドのまま9回裏、最終回の攻撃に入ります。ホークス、ここまでライオンズ相手に僅か2安打と完全に封じ込まれています」

千鶴「ねえ」

真栄田「……うん？」

千鶴「荷物整理出来たから。もう行く」

真栄田「ああ、そう」

実況「今日の試合で引退を表明している田村。この回、代打での登場が期待されます」

真栄田「なに……行かないの？」

千鶴「うん……やっぱ田村見てからにしよう

かな」

真栄田「ああ」

アナウンス「四番、山本に代わりまして代打、
田村」

実況「おーっとここで代打、田村のアナウン
ス！ 場内が湧きます！」

千鶴「田村！ 田村来た！」

真栄田「うん田村」

実況「田村、これまでの長い野球人生を噛み
しめるようにゆっくりとバッターボックス
に向かいます！」

千鶴「田村ー！ 行け田村ー！ 打てー！」

真栄田「そうね、うん田村」

千鶴「いや。は？」

真栄田「え？」

千鶴「なにそのスタンス？」

真栄田「スタンス？」

千鶴「なんでもっと応援しないの。田村、今

日引退だよ？ 生涯ホークスを買いたレジ

エンド田村の最後の打席だよ？」

真栄田「……いやそうなんだけどさ」

千鶴「てか宏、田村のファンじゃん」

真栄田「まあ」

千鶴「ユニフォーム持ってたよね。なんで着てないの？」

真栄田「いや」

千鶴「どこにしまってるの。早くしないと打席が終わ」

真栄田「そんな気分になれるわけないだろ！」

実況「ストライク！ 田村、ストレートに全く手が出ません！」

千鶴「……ごめん」

真栄田「……いや、俺の方こそ」

千鶴「……最近ね」

真栄田「ん？」

千鶴「初めて宏とあった日をよく思い出すの」

真栄田「え」

千鶴「憶えてる？ あの日、田村ホームラン打ったの」

真栄田「そりゃ……憶えてるよ」

実況「ピッチャー二球目！ 空振り！ ツー
ストライク！ 田村追い込まれました！」

千鶴「満員の福岡ドーム。観客の大歓声。応援団の太鼓とトランペットの音。全部昨日の事のように憶えてる。あの日。私、会社で失敗して落ち込んでたけどさ、田村がホームラン打って。綺麗な放物線で。それ見たらなんかどうでも良くなって。気付いたら隣に座ってた全く知らない男性と抱き合っ
って喜んじゃって……まさかその人と結婚するなんて思ってもみなかったけど」

真栄田「……うん」

千鶴「私の、ずっと色褪せない大事な想い出。一生、大切にしようって思う、想い出」

真栄田「……あのさ……やっぱり俺たち、もう一度」

千鶴「それは違うよ」

真栄田「え」

千鶴「こうやって思えるのは、終わるからなんだよ。あなたと別れてなかったら、思い出すことさえしなかった思い出なんだよ」

実況「三球目投げた！ あー！ 空振り三振

！ 田村、現役生活最後の打席は三振で幕を閉じました！」

千鶴「なんだ三振かあ……あーあ。あの時みたいにな田村がホームラン打ってたらめっちゃめっちゃドラマチックだったのにね」

真栄田「千鶴」

千鶴「まあでも逆に綺麗か。始まりの日はホームラン。最後は日は三振。これ以上な……」

真栄田「千鶴！」

千鶴「……ん」

真栄田「やり直そう」

千鶴「……ねえ」

真栄田「やり直せるって。俺たち絶対にやり直せる！ だってこんなに感傷的になって、名残惜しいと思ってる……別れたら絶対後悔するやつだって！ でしょ！？」

実況「現役生活を終えた田村に球場中から惜しめない拍手が送られています！ 田村。それに手を挙げて答え……」

テレビの音声が消える。

千鶴「ちよつと何消してんの」

真栄田「千鶴」

千鶴「つけてよ」

真栄田「千鶴。結婚しよう」

千鶴「……離婚届出したばっかなんだけど」

真栄田「また婚姻届出せば良いでしょ」

千鶴「あのね。そんな出したり引つ込めたりするもんじゃないの」

真栄田「分かってる」

千鶴「分かかってない。じゃあ、分かった」

真栄田「え？」

千鶴「田村がもう一度ホームラン打ったら結婚してあげる」

真栄田「田村さつき引退したんだけど」

千鶴「そう。そういうこと。それぐらいありえないってこと」

真栄田「どうして」

千鶴「私はね？　あなたが嫌いになったんじゃないんだよ」

真栄田「え？」

千鶴「私は、あなたといる時の私が嫌いになったの。どんどん自分らしくなくなっていく自分が、嫌いでしょうがなくなっただよ」

真栄田「新しい……飯原さん？」

千鶴「五十嵐さん。全然憶えないね。別に良

いけど」

真栄田「五十嵐さんという時は、千鶴は千鶴らしくいれるってこと？」

千鶴「そうだよ」

真栄田「この先もずっと？」

千鶴「この先もずっとだよ」

真栄田「……そう」

千鶴「つけよ、テレビ」

真栄田「いいよもう」

千鶴「よくない。最後まで観るの」

真栄田「田村の打席終わったし」

千鶴「だからでしょ」

真栄田「田村引退したし」

千鶴「だからでしょ。一緒に、試合終了まで観るんだよ。そしたらきつと……ちやんと

終われる」

真栄田「……うん」

テレビの音が入る。

観客の大歓声。

実況「信じられないことが起きています！」

真栄田と千鶴「ん？」

実況「ホークス打線が止まりません！ 連打
連打で一点を返し、4対1！ なおもツ
アウトランナー一塁で二番の岡田を迎えま
す！」

千鶴「……に、にばん？」

真栄田「あと二人出塁したら……もう一度田
村に打席回るよ！」

千鶴「ええ！？」

実況「まだ田村の野球人生は終わっていないか
った！ 田村にもう一度だけ打席を回そう
と選手たちが必死になっています！」

真栄田「さつき千鶴言ったね」

千鶴「え」

真栄田「田村がホームラン打ったら結婚してあげるって」

千鶴「……いやそれはさあ」

真栄田「言ったよね」

千鶴「言ったけど……けどさ」

真栄田「けどさ？」

千鶴「……いやいや、ホームランなんてありえないって。まずそもそも田村の前に二人出塁しなきゃいけないわけで。そんな上手いこと」

実況「岡田、センターに打ち返したあ！」

千鶴「え」

実況「センター前ヒット！ 繋いだ繋いだ！ ランナー1、2塁！ あと一人出れば田村に打席が回ります！」

真栄田「凄い……凄い凄い！ 千鶴！ 凄い

よ！」

千鶴「う、うん、凄い……でももうさすがに」

実況「さあ三番川原が打席に立ちます！ 田

村に繋げることが出来るか！ ピッチャー

投げて……打ったあ！ あー！ ボテボテ

！ サードゴロだあ！」

真栄田・千鶴「うわー！」

千鶴「走れ！」

真栄田と千鶴「走れー！」

実況「サード、ボールを捕ってファーストに

投げた！ 判定は……アウトー！」

真栄田・千鶴「ぬわー！」

実況「試合終……いや！ セーフ！ セーフ

です！」

真栄田・千鶴「え」

実況「ファースト、ボールをこぼしている！

エラー！ 繋がりましたー！」

千鶴「……繋いだ」

真栄田「繋いだ……田村に繋いだ！」

真栄田・千鶴「うおー！」

実況「なんとという奇跡！ この回、田村に二

度目の打席が回ってきました！ しかも満

塁！ ホームランが出ればホークス、逆転

サヨナラ勝ちです！」

真栄田「千鶴！」

千鶴「は、はい！」

真栄田「田村がもし……もしホームラン打っ

たら……俺と結婚してください！」

千鶴「……はい……よろこんで！」

実況「さあ田村、打席に立ち……なんだ？」

田村バットを高々と掲げ……おっとお！？

こ、これは田村、ホームラン予告だあ！」

千鶴「田村かっけえー！」

真栄田「打て……田村ホームラン打てー！」

千鶴「ぶちかませ田村ー！」

実況「球場全体が田村のホームランを期待しています！ さあ、ピッチャー、投げた！」

カキーン！

真栄田・千鶴「打ったー！」

実況「ライト下がる！ 下がる下がる！ 入るか！？ ホームランか！？」

真栄田「いけー！」

千鶴「入れー！」

実況「あー！　しかし打球は急激に失速！

ライトキャッチしてスリーアウト試合終了
ー！」

真栄田「……千鶴？」

千鶴「……ん」

真栄田「俺と……結婚」

千鶴「ごめんなさい」

真栄田「いやいやいやいや！？」

千鶴「（吹き出す）」

真栄田「いやホームランにはならなかったけ

どさあ！　千鶴応援してたじゃん！　って

ことは結婚望んでるってことで！　ねえさ
つきからなに笑ってんの！？」

千鶴「（笑いを堪えながら）いや……冷静に
考えたら田村がホームラン打つか打たない
かで再婚決めるのはさすがに……ねえ？」

真栄田「いや冷静になっちゃ駄目でしょ！」

千鶴「（笑いを堪えながら）ごめんごめん、
でも良いんだってこれで。ほら。見てよ田

村のあの顔」

真栄田「え？（納得したように）……あ」

千鶴「……あの顔で終われるんならさ、それ以上のこと、ないよ」

実況「見てください田村の表情を！ 笑いながら号泣しています！」

千鶴「ホームラン打ってたら、あの顔で終われてないよ。だよね、宏？」

真栄田「……うん。そうだね」

実況「ホークスの選手達、そしてライオンズの選手達までもが田村の元に集まっています！ そして……田村の胴上げが始まりました！」

〈終〉